
Angel Beats! SIDE 『I』

クラウン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Angel Beats! SIDE 『I』

【Nコード】

N0543Z

【作者名】

クラウン

【あらすじ】

死んでしまい、記憶がなくなってしまった少年 真田。

彼は、死後の世界で神に抗い、歌う一人の少女に出会った。

第一話 『入隊』（前書き）

AB!の二次創作です。

暖かい目で見てください。

第一話 『入隊』

「ここは……どこだ？」

満月が輝き、星が夜空を埋め尽くしているきれいな夜、俺は目を覚ました。

辺りを見回す。

どうやら学校のようだが、いつも見慣れた学校ではなく、着ている制服もデザインが全く違う。

「どうなってんだ？」

そう言いながら立ち上がると……

「目が覚めた？」

不意に声をかけられた。

声のした方を向くと、紫の短髪と頭に結んだリボンが特徴の女の子がいた。

「あんた……誰？」

「そういうことを聞くときはまず自分から名乗るべきじゃない？」

腕組みをして仁王立ちをしているその女の子は、強気な姿勢で俺の質問に答えた。

「ああ、そうだな……俺の名前は……えっと……さ、真田？」

名前を言おうとしたが、なぜか名字しか思い出せなかった。

「いや、そこ疑問系にされても困るんだけど……」

「仕方ないだろ。わかんないんだから……。で、あんたは？」

そう言って、女の子に改めて質問した。

「私はゆり。……そっか、記憶がないのね……。まあ、大丈夫よ」

「初対面の人に大丈夫だと言われても何一つ安心できないんだけど……」

「うるさい！ 文句言わない！……オホン！……えー…真田君！
今すぐ『死んでたまるか戦線』に入隊しなさい！」

ゆりはその指を突きつけて言った。

第一話 『入隊』（後書き）

第一話でした。

これからなるべく早いペースで書いていけたらいいなと思ってます。

感想、コメント等お待ちしております。

第二話 『メンバー』（前書き）

第二話です。

戦線メンバーを一気に出します。

よろしく願います。

第二話 『メンバー』

見知らぬ世界。

その世界で会った見知らぬ女の子。

そして、突然言われた『入隊しろ』の言葉。

俺の頭は完全に混乱していた。

「入隊？」

「そう。ここにきて存在し続けていたなら私達の仲間になりなさい。それとも、天使に消されたい？」

「はっ？ 天使？」

聞きなれない言葉に、俺は聞き返した。

「そう。あれよ」

そう言っただけはグランドを指さす。

その方向を見ると、そこには銀髪の背の低い少女がいた。

「あれが天使？ 普通の女の子にしか見えないけど？」

「一見可愛らしく見えるけど外見だけよ。あれに消された仲間も何人もいるんだから……。とりあえず、ここにいたら見つかるわ。私について来て。詳しい話はそれからよ」

ついて来いと言われても、あの子に見つからない場所なんかあるのか？

「どこ行くんだよ？」

「『死んでたまるか戦線』の前線基地。そこに仲間達もいるわ」

そう言ってゆりは振り返り、歩いていった。
俺もその後ろに続いた。

「……………」

俺は今、『死んでたまるか戦線』の前線基地であろう場所に来ているのだが…………

「……………ここ、校長室だよな？」

明らかに校長室だ。プレートもあるし…………

「そう、『死んでたまるか戦線』の前線基地よ」

「いや、だから校長室だろ？ 現実を見るよ」

「前線基地なの！！ 中に仲間もいるから入りなさい！」

半ばキレ気味に言うゆり。そして、何か呟くと扉を開け中に入った。
俺も扉が閉まらないうちに入った。

……………後にこうして良かったと心の底から思った。

中に入ると、何人も人がいた。

「ゆりっぺ、そいつは？」

「新しい奴か？」

でかい斧の様な物を持った男と青髪の男が聞いてきた。

「そうよ。新しく我が戦線に入隊した真田君」

「いや、『した』というより『させられた』の方が正しいんじゃないかな？」

「それじゃあ、戦線メンバーを紹介するわ」

ゆりは、俺の言葉を華麗に無視し、紹介に入った。

「まず、ハルバードを持っているのが野田君」

「ふん！」

紹介されたにも関わらず野田はそっぽを向いた。
……こいつ、きつと友達少ないな。

「青い髪のチャラっぺいのは日向君」

「よろしくな！」

日向が手を突きだしてきたので、握手で返した。

「で、全然特徴が無いのが大山君、影にいる子が椎名さん」

「よろしく」

「浅はかなり」

大山は普通に挨拶してくれた。

あれ？ 椎名には何故が見下された？

「眼鏡をいちいち持ち上げてインテリぶってるけど本当はバカなのは高松君、でかくて、柔道五段なのが松下君、ドスを持ってチンピラっぽくしてるけどすごく弱いのは藤巻君、バンドナを巻いた謎の男がTK」

「ちよつ！ 待って！ ストップ！ ツッコミどころ多くてついていけない！」

なんだこの個性的すぎるメンバーは!？

……逆に覚えやすいが、仲良くしていけるか心配だ。

「最後に、そのソファアに座ってるのが岩沢さん。陽動部隊のリーダーよ」

そして、この破天荒リーダーは俺の願いを聞いてくれないし……。

岩沢は、普通だよな？

「よろしくな、新人君」

そう言って手を差し伸べた岩沢。

良かった。普通だ。

「ああ。よろしく」

俺もその手を取って握手し返した。

「ついでに、岩沢さんは音楽キチよ」

「いちいち要らないこと言つなよー！ー！」

俺は項垂れるしかなかった。

こうして、俺だけでも疲れたメンバー紹介は終わった。

第二話 『メンバー』（後書き）

第二話でした。

次回はひさ子達を出す予定です。

感想、コメント等お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0543z/>

Angel Beats! SIDE 『1』

2011年12月2日22時53分発行